

第8回

NPOは新しい公共をつくる役割がある 足腰を強くしよう！

田尻佳史(日本NPOセンター事務局長)



田尻佳史
大学卒業後、ケニアに渡り、現地のNPOが運営する養護施設に関わる。帰国後、大阪ボランティア協会職員となる。1996年11月より日本NPOセンターへ出向、2001年7月より日本NPOセンター事務局長。

社会問題解決の担い手として、大きな期待がよせられているNPO。しかし、「実態がよくわからない」という声をよく聞く。NPOの現状と課題を伺った。

NPOは新しい公共をつくる役割

・NPOの捉え方は人それぞれ
→今回は法人枠での観点から捉えることとする(右図参照)
議論するには言葉を定義することが必要

もともとは、
Non Profit Organization
=非営利組織であるが、「non」という単語に何か否定的な感じを持つ人もいる。

そこで、
New Public Organization
新しい公共の担い手として読み替える人も増えてきた。

NPOの概念図



他のセクターとの違い

セクター	主体	組織理念	行動原理	特性	活動
第1セクター	行政	社会的合意	手続き	画一性・公平性	全体的
第2セクター	企業	最大利益	競争	対価性	選択的
第3セクター	NPO	価値実現	共感	自発性・多様性	部分的

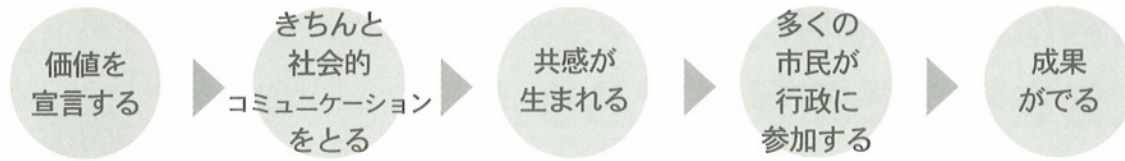
NPOの行動原理は共感

行政は社会的合意を得るために、申請書なりの事務手続きをキチッとやっていく。全体を見渡して公平性に目配りすることも必要です。企業は、利益を得るために、モノをつくったりサービスを提供する。最近は社会貢献に力を入れているところもありますが、基本的な行動原理としては競争があり、対価を得るという特性を持っています。一方、NPOの場合は、自分たちや市民の持っている「価値」をどう実現していくか。そしてそれを実現するために、だれかに言われてやるのではなく、自発的に行動する。その際の行動原理は「共感」なんです。だから共感できないとつながらない。NPO同士がネットワークしにくいという問題点が指摘されるのも、共感できないと参加しないという行動原理があるからです。

NPOの活動分野と団体数

活動の種類	法人数	割合(%)
保健・医療・福祉	5,558	59.58
社会教育	4,260	45.66
まちづくり	3,526	37.8
文化・芸能・スポーツ	2,748	29.46
環境	2,638	28.28
災害救援	689	7.39
地域安全	782	8.38
人権擁護・平和	1,476	15.82
国際協力	2,248	24.1
男女共同	901	9.66
子ども	3,489	37.4
各団体の連絡・助言・援助	3,647	39.09

よいNPOの条件とは？



今のNPOの課題とは？

とにかく足腰の弱さ

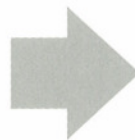
- 少ない有給スタッフ
- のびない会員数や寄付者数
- 委託を受けるとそれに振り回されてしまう
- 体力がないのでネットワーク拡大に向かうゆとりがない
- 外部との協働に慣れていない



それぞれのセクターが同じ1人の人の違う側面にアプローチしている

課題の解決方法は？

- ①じっくりと「市民」を育てていくこと
その器がNPO
- ②人材育成だけではなく
人材の交流、交換、移籍の時代へ
- ③自分たちだけで固まらず、
外の人と一緒にやること
キャパシティの拡大を



長期的には20代～40代の働き盛りの人が関わられるようになることが必要

求められる人材

NPOセクターを強化し
他のセクターと適切な
協働をおこせる人

そのためにも、長期的に20～40代の働き盛りの人が関わる体制をつくらなければならない

NPO以外の組織を経験してきた人や外部の人と一緒にうまくやれる人

NPOの行動原理を理解して動ける人

人材育成のみではなく外からの移籍を視野によい人材を確保できる人